

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

11 (通巻15号)

平成15年7月5日発行

【目次】

こんながあります - 番外編 -	
『北海道雑誌新聞総合目録』を発行しました！	1
調べ学習三種の神器(?)はこれだ！	2
官庁・法令情報を知るために	
「平成14年度法令議会資料・官庁資料研修」参加報告に代えて	3
INFOSTA(情報科学技術協会)セミナー	
「インターネットで文献検索」に参加して	6
こんなに利用されました - 平成14年度業務実績 -	7
課員のつぶやき 日々の業務の短信 -	9
News	10
『北海道雑誌新聞総合目録<暫定版>』収録範囲を拡大	
新任実務研修に風連町が来館	
平成15年度全道図書館新任職員研修会に当課も協力	
貸出文庫に新規タイトル増加	
「レファレンス体験研修」参加者募集中！	
夜間開館始まる	
編集後記	11



北海道立図書館

069-0834 北海道江別市文京台東町41番地
Tel 011-386-8521
Fax 011-386-6906

ホームページ <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.jp/hk-tosho/top.htm>

<連載>

こんなのあります 番外編

- 「北海道雑誌新聞総合目録」を発行しました！ -

皆さんご覧いただけただでしょうか。昨年度から取り組んできた「北海道雑誌新聞総合目録」暫定版ではありますが、道内市立図書館の購入雑誌を冊子体&ネット版で公表しました。公開が予定より半年近く遅くなりましたが、所蔵館調査に使えるツールとして役立つものと確信(?)しています。ご協力いただいた館にお礼を申し上げるとともに、協同業務の成果を簡単に報告します。



《製作までの経緯》

一番の要因は所蔵館調査における雑誌の調査依頼の増加です。幅広い分野の調査依頼の中で、雑誌は確実に増えてきています。当館において調査するためのツールは、館外奉仕課(現:市町村支援課)が数年前に作成した『道内町村立図書館等購入雑誌リスト』『市別・雑誌別道内市立図書館等購入雑誌リスト』そして各図書館が公開しているOPACが頼りでした。図書館同士が共有できる利便性を考えて更新する必要があり、一念発起の思いで作成を決意したのです。

さらに今回の目録では、今までの冊子体にプラスしてインターネット上でも公開することにしました。多くの都府県立図書館でもこのような目録をインターネット上で公開しており、北海道でもいつか実現させたいと常々思っていたものでした。そして、今回の改訂を機に作成に踏みきることにしました。

《製作にあたって...》

一番の問題点はインターネットで公開するに当たり、どう見せるかということでした。OPACのように検索機能がつけば最良だったのですが、諸般の事情で実現に至らず、それなら一覧にしようと相成ったわけです。仕様は、東京都立図書館で公開している方法を採用しました。これにより、各館からのデータの提供は、表計算ソフト『Excel』で提出していただくことにしたので、当館の編集作業量も軽減し、ぐっと楽になると予想しました。



《楽になったとはいえ...》

編集作業自体は楽になりましたが、市立図書館から提出された所蔵情報が予想以上の量だったため、その整理に四苦八苦。また、アドレスを見ていただければわかりますが、何重ものフォルダの奥にデータを置くこととなり、それを呼び出して保存するまでに時間がかかり一向に進まず。ホームページに搭載できる形になるまで2ヶ月の月日がかかることになってしまいました。

《そして公開》

そして、4月17日15時13分、念願の公開へ!! 設定通りに開く、動く…。動いて当たり前なのですが、自分たちで作っただけに感動です。紅白まんじゅうならぬ、お祝いの煎餅が奉仕部内で配られました。……その時、動かない部分、データミスを見つけることになろうとは知る由もなかったことでした。(後日、誤動作及びデータミスの修正に1週間かかりましたが、現在は順調に稼動中です)

《利用者の声》

5月の司書会で、当課職員がこの目録についての突撃インタビューをしてきました。

ネット版は使っていない。

所蔵館の確認に何度か。数が増えれば、ネット版も有効になるだろう。

利用している。今のようにタイトルと所蔵年数がわかればよい。

数が少ないためあまり利用していない。

使っています。

今回公開したのは市立図書館30館分で、収録タイトル数、館数が少ないため冊子版の方が見やすいという意見が多数でした。

《今後の展望》

市立図書館に引き続き、今年度は町村立図書館の皆様にもご協力をお願いする予定です。《利用者の声》にもありましたが、現在の目録は市立図書館のみのデータのため収録件数は多くはありません。発展途上の本目録ですが、皆様との協力により、維持・管理を含めてより便利なツールを目指します。ご協力をお願いします。

また、本目録のもう1つの柱、「所蔵新聞目録」も鋭意製作中です。北海道の新聞は、他の都府県に比べ地方版の数が多く、どう表現すべきか検討していますが、できるだけ早い時期に完成するよう作業を進めていきます。

(?)

これとは、「ポブラディア」全12冊(ポブラ社 2002刊)の付録ビデオ(20分)、紙芝居「ようこそ図書館へ」全3組(童心社 1996)と、「よりよい総合的な学習の時間をめざして - こんなときどうする Q&A -」(北海道図書館振興協議会 2003)を指定したい。

調べる前に、観て・聞いて・なぞる。これで調べ学習の達人になれます。特に は児童向けですが、索引や目次をみることや、使った資料名を記録するなどの要点を押えており、学ぶに不足はありません。ちょっとした見つけものをしたような…。

当館でも、調べ学習のための資料寄せ(貸出)の依頼が増えています。学習現場での学習の進め方がいまひとつ見えてこないのですが、図書館でのガイダンスに使えます。(貸出可。 は、各図書館へ送付済み)



官庁・法令情報を知るために

「平成 14 年度法令議会資料・官庁資料研修」参加報告に代えて

官庁資料や法令資料へのアクセスは、難しい・複雑 という印象があるかと思います。場合により資料の蓄積も必要で、範囲も広く、捕捉しづらい分野です。何がわかって何がわからないか（実はここが一番難しい？）戸惑うことも多いのではないのでしょうか。

都道府県立図書館職員を対象に、国立国会図書館関西館で開催（3月6日～7日）の標記研修から概要をお知らせします。

「図書館と情報公開の課題」（講義：大阪大学大学院法学研究科教授 松井茂記氏）

「日本の官庁資料の探し方」（講義・演習：国立国会図書館調査及び立法考査局議会官庁資料課課長補佐 曾雌裕一氏）

「日本の法令議会資料の調べ方」（講義・演習：国立国会図書館調査及び立法考査局議会官庁資料課主査 三浦修氏）

カリキュラムは、上記の三本立てでしたが、ここでは、 および についてふれます。

1 官庁資料とは 把握できない？日本の官庁資料

定義は、国際図書館連盟（IFLA）やユネスコにもある。国立国会図書館では 国立国会図書館法 により、『国の諸機関により又は国の諸機関のために発行された出版物、都道府県若しくはこれに準ずるものの諸機関により又はこれらの諸機関のため発行されたもの』としている。日本ではアメリカ合衆国などと違い、官庁資料の寄託制度（deposit system）はない。市販されている資料は購入し、非売品は何らかの手段で入手することになるが、圧倒的に非売品が多い。出版されたものは国立国会図書館に納本しなくてはならないが、出したところがそれらを「出版」したと認識していなければ納本されない。また、集中して政府の印刷局が出版するというやり方ではない。さらに、各省庁のなかでも一元的に自省庁出版物を把握していない。納本もれ、情報もれが生ずる。

2 国立国会図書館には 法律政治・官庁資料室 がある

政治・法律分野の参考図書類、官庁資料（国内と主要国）、国際機関資料（国際連盟、国際連合とその専門機関、EU、OECD、CE など）の利用提供とレファレンスを行う。

【平成 15 年秋以降、法令議会資料室と合併し

の予定】

HP <http://www.ndl.go.jp/jp/data/political/index.html>

国立国会図書館 HP トップページからの検索手順

日本の国会・世界の議会 法律政治・官庁資料室 法律政治・

官庁資料室関連サイト集

テーマ別調べ方案内(特色ある資料群) 官

庁資料 法律政治・官庁資料室関連サイト集

ポイントその1
まずは、
国会図書館から

3 官庁資料を探すには 印は当館未所蔵

目録等

「官庁刊行図書目録」昭和 2 年～18 年

(内閣印刷局)、「官庁刊行物総合目録」1～

8 (国立国会図書館)、「官公庁出版物目録」

昭和 41～51 年版 (国立国会図書館)、「官庁

資料要覧」(政府資料等普及調査会)、「財務省

印刷局刊行物目録」、「政府刊行物等総合目

録」(全国官報販売協同組合 年刊 <http://www.>



< 国立国会図書館ホームページ・トップページ画面 >

gov-book.or.jp/index.html)「政府刊行物月報」(政府刊行物普及協議会)「政府資料アブストラクト」(政府資料等普及調査会資料センター)「月刊ニュー・ポリシー」(研恒社政策情報資料センター 注:審議会答申や注目される報告書要約など掲載。年刊目録集あり)

名簿・総覧

「職員録」(財務省印刷局)「特殊法人総覧」(総務省行政管理局)「審議会総覧」(総務省行政管理局)

4 代表的な官庁資料 - どんなものがあるか?

白書(「公務員白書」のように国会に対する報告書を白書として刊行するもの、「国民生活白書」のように閣議への報告書として刊行するもの(「外交青書」も『白書』)、「天下り白書」のように行政省庁の報告書で通称名のものがある。

統計(「国勢調査」のような指定統計調査、「貯蓄動向調査」のような承認統計、「出入国管理統計調査」のような届出統計調査 がある)

代表的な統計索引: 「統計情報インデックス」(総務庁統計局) 「統計調査総覧」(全国統計協会連合会) 『統計情報総合案内』(総務省統計局);前記の の内容をインターネット上で検索できる。(総務庁統計局・統計センターからアクセス可) 『統計情報検索システム』; 前記 の 1998 年版及び の平成 9 年度版のデータを用いた実験的な統合型検索システム <http://www.e.u-tokyo.ac.jp/itme/statsrch.html>

基本的なデータを収録した代表的な統計資料:「日本統計年鑑」(総務庁統計局)、「日本長期統計総覧」(日本統計協会)「完結昭和国勢総覧」(東洋経済新報社)「世界統計総覧」(国際連合統計局編)「ユネスコ文化統計年鑑」(ユネスコ編)

広報誌、年報、年史(注:年史は、以前には未公開だった資料が掲載されることあり。資料編などに出版目録や年表がある)

審議会資料(注:諮問、答申、議事録(非公開が多い)がある。出版物の形をとらないこともある。)【国会図書館では、書誌情報をカード化している **レファレンスとして回答可能**】

主な研究報告 まとまったコレクション:文部科学省科学研究費補助金による研究成果報告書 [採択課題 DB は NACSIS - IR 上で公開]。報告書の国会図書館所蔵(10万冊)DB は非公開だが、照会は可。最近のものはほとんどが納入されている。

まとまったコレクションではないが、利用の多い研究:厚生科学研究費、精神・神経疾患研究委託費、心身障害研究費 厚生省では、『厚生科学研究成果データベース』 <http://webabst.niph.go.jp/> で公開(近年分は全文)。環境保全総合調査研究促進調整費(環境省)地球環境研究総合推進費(環境省) 科学技術振興調整費(文部科学省)

世論調査 始まりは「経済実相報告書に対する世論動向調査」(昭和 22.8)

5 電子化された官庁情報 紙媒体から電子情報へ

パッケージ系電子出版物(CD-ROM やフロッピーディスク ほか)
ネット系電子出版物(インターネット HP は、各省庁で開設)

ポイントその2
首相官邸からも

役に立つホームページ集(リンク集)・日本語の部

首相官邸(電子政府の総合窓口)や**総務省**の HP を入り口にすると便利!

首相官邸 <http://www.kantei.go.jp/>

官公庁リンク集 http://www.kantei.go.jp/jp/link/server_i.html

白書リンク集 <http://www.kantei.go.jp/jp/hakusyo/index.html>

総務省統計局統計センター <http://www.stat.go.jp/index.htm>

統計情報総合案内(総務省統計局) <http://www.stat.go.jp/index/index.htm>

電子政府の総合窓口 <http://www.e-gov.go.jp/>

各省庁・独立行政法人等のホームページ集 <http://www.e-gov.go.jp/link/link.html>

世論調査 <http://www8.cao.go.jp/survey/index.html>

6 関連機関照会先・・・こんなところもある!

出版されている刊行物 政府刊行物サービスセンター(在東京 ほか全国)

札幌:札幌市北区北 8 西 2 札幌合同庁舎内 tel 011-709-2401

7 インターネットで入手できる法令・議会情報

1 議会情報

衆議院 <http://www.shugiin.go.jp/> 「議案一覧」(142 国会~)、「会議録情報」(145 国会~)、「質問・答弁」(148 国会~)、「請願」(143 国会~)、「公報情報」(147 国会~)、「衆議院の動き」(平成 11 年版以降)、「憲法調査会中間報告書」(平成 14 年 11 月 1 日付)、「衆議院 TV」(オンライン中継、ライブラリ 147 国会~)

参議院 <http://www.sangiin.go.jp/> 「会議録情報」(直近のみ)、「議案審議情報」(当該会期のみ)、「請願」(当該会期のみ)、「調査会報告書」〔平成 8 年以降〕、「審議中継」(オンライン中継、ライブラリ過去 2 週間分のみ)

参議院法制局 <http://houseikyoku.sangiin.go.jp/> 「参議院議員提出法律案」(1 国会~)

国立国会図書館 <http://www.ndl.go.jp/> 「国会会議録検索システム」(1 国会~)

総務省行政管理局「電子政府の窓口」 <http://www.e-gov.go.jp/> 「白書(年次報告書)」、「所管法律案・関係資料」、「予算及び決算」

財務省 <http://www.mof.go.jp/> 「予算書・決算書情報」(昭和 22 年度以降)

会計検査院 <http://www.jbaudit.go.jp/> 「決算報告書 DB」<http://report.jbaudit.go.jp/>

地方議会エクスプローラー〔個人運営〕

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~L-Fairly/chihouex.html>

2 法令情報

財務省印刷局 <http://www.pb-mof.go.jp/>

「官報」(過去 1 週間分)<http://kanpou.pb-mof.go.jp/>、「官報」昭和 45.4 以降(フルテキストデータベース、有料/登録制)

全官報 <http://www.gov-book.or.jp/> 「官報」- 歴史、目次検索(1996.6~)

大阪府官報販売所「かんぼう」- 目次検索(過去 3 ヶ月分、FAX・郵送サービス)
<http://kanpo.net/>

総務省行政監察局「電子政府の窓口」<http://www.e-gov.go.jp/> 「法令検索システム」、「所管の法令・告示・通達」

衆議院 <http://www.shugiin.go.jp/> 「制定法一覧」(1 国会~)

洋々亭の法務ページ(個人運営) <http://www.hi-ne.jp/tomita>

「自治体 Web 例規集へのリンク集」

法庫(個人運営、一部有料) <http://www.houko.com/>

全国条例データベース(鹿児島大法文学部)

<http://joreimaster.leh.kagoshima-u.ac.jp/>

3 判例情報

裁判所 <http://www.courts.go.jp/> 「最高裁判所判例集(民事・刑事)」、「労働事件関係民事判例集」、「知的財産権関係民事判例集」、「最近の主要判決」(最高裁 H8~)、「最近の主要判決」(下級裁 H13 下半期~)

行政機関の行う審判・裁決・審決など

研修報告終 -

ポイントその3
個人のHPも

日本の法令・きほんのき

資料:「官報 110 年記念特集」(大蔵省印刷局)ほか

大まかな形式:「憲法」、「法律」(国会が制定)、「政令」(内閣の命令。法律の施行令はここ)、「府令・省令」(総理府及び各省大臣が出す命令。法律の施行規則はここ)、「告示」、「訓令・通達」(原則として『官報』には掲載されない)などがある。「条約」(外国との間で合意したもの)も、広義の法令。地方公共団体が定める法として「条例」がある。

『官報』は、行政機関の休日を除き毎日発行。『官報』の前身は『太政官日誌』。

『官報』及び『太政官日誌』を再編した『法令全書』も発行されている。

法律と判例の関係は？

資料：「入門の入門法律のしくみ」(山崎和義著)による
法律の条文の解釈のしかたについて、紛争が生じることがある。すると、その紛争が裁判所に持ち込まれることになり、そこで裁判所の判断がくだされることになる。この判断が、判決あるいは判例といわれるもの。もっとも判例というのは、具体的な紛争を前提としているので裁判所のひとつの判断が、他の事例でもそのまま当てはまるものではないが、その法律の解釈の指針となる。

理解、活用するためのお勧め本<当館所蔵から。セ：請求記号>

「政府刊行物を 120%読みこなす法」これで差がつく！何をどのように活用するか!!」(寺谷弘壬監修 明日香出版社 1987 243p セ:014.75/SE)

「リーガル・リサーチ」(いしかわまりこ ほか著 日本評論社 2003 392p セ:320.7/R)

:第1部；リサーチの方法 第2部；法令を調べる 第3部；判例を調べる 第4部；文献を調べる

「すぐに役立つビジネス情報源官報の徹底活用法」(牧潤二著 サンドケー出版局 270p セ:317/KA)

「法律学のためのインターネット」(指宿信ほか著 日本評論社 1996 207p セ:321/HO)

「法律文献学入門 法令・判例・文献の調べ方」(西野喜一著 成文堂 2002 203p セ:320.7/HO)

「法学ナビゲーション」(安念潤司ほか著 有斐閣アルマ 1996 244p セ:321/HO)

:Map 法学入門のそのまた入門 Map 司法 Map 行政 Map 立法

雑誌「情報の科学と技術 51巻3号 特集法令・判例情報」(情報科学技術協会 2001.3):
総論法令・判例情報とは - その生成と提供のプロセス(指宿信) 国内法令の調べ方(福永清三) 国内の判例(集)の調べ方(石川万里子) 海外の法令・判例情報(染谷雅幸ほか) 国内の官報(足立寛子)

雑誌「法律時報 75巻3号 特集法情報検索教育と法科大学院」(日本評論社 2003.3)

:法律情報検索における検索スキル(齊藤正影)、法情報データベースの比較報告(いしかわまりこ) ほか

INFOSTA (情報科学技術協会) セミナー「インターネットで文献検索」に参加して

講師：実践女子大学図書館 伊藤民雄氏

とき：2003年2月22日(土) ところ：東京 機械振興会館

“インターネットで文献検索”、この余りにも魅力的なセミナー名に心引かれて、東京まで出かけてきました。主催者の INFOSTA はサーチャー向けの講習会などを頻繁に行っている社団法人です。講師の関係もあるのか、参加者の多くは大学図書館関係者の模様でしたが、一般の人も含め、定員の80名は十分集まっていたと思います。会場で石狩市民図書館の丹羽氏にお会いできたのも嬉しい驚きでした。

講義は次の三部形式で行われ、テキストには「インターネットで文献検索 2002年版」(実践女子大学図書館編 日本図書館協会 2002)が使用されました。

第1部 インターネット時代の図書館員によるレファレンスツールの作成と利用

第2部 冊子作成の裏話と特殊言語の文献検索

第3部 日本式デジタル・レファレンスを考える

3時間程度の短時間ではありましたが、外国文献検索の話題、国内のインターネット・レファレンスに関する話題も取り上げられ、館種を超えた図書館員のネットワークの必要性などにも、話がおよびました。

この講習会以降、私が良く使うのは「WorldLingo(www.worldlingo.com)」と言う翻訳サイトです。Web 翻訳もテキスト翻訳も可能で、最大の特徴は翻訳可能言語の多さです。英/蘭/仏/独/伊/西/葡/露/中/台/韓/ギリシア語。機械翻訳の例に漏れず奇怪な日本語訳ですが、内容を推察するには役立ちます。ぜひ、お試しあれ!

こんなに利用されました！

-平成14年度業務実績-

平成14年度の当課における参考調査件数は、21,409件（前年度比7%減）でした。減数は総件数の大半を占める所蔵有り無し調査の減によるものです。13年度に引き続き、14年度も市町村図書館（室）に於けるインターネット環境の整備が進んでいます。全国的にOPAC公開館が増加し、道内でも、道立や札幌市など大規模図書館のOPAC公開が相次ぎました。自館による所蔵調査・所蔵館調査が可能になってきていることから、単純な所蔵調査件数は今後とも減少が予想されま

ず。
参考調査課としては、14年度新規事業の「北海道雑誌新聞総合目録」（HP掲載）の充実・更新、各種文献目録の作成、レファレンス通信「Do-Re」での情報提供、レファレンス研修事業の継続など、間接レファレンスを積極的に行ない、レファレンス・サービス全体のサポートをしつつ、回答業務のレベルアップに努めます。
本年も、どうぞご利用ください。

平成14年度参考調査課 業務実績

1	合計処理件数	21,409件	（平成13年度実績 23,054件）
2	事項調査	2,009件	（平成13年度実績 2,178件）
	（解決）	1,864件	（92.7%）
	（未解決）	145件	（7.3%）
3	所蔵調査	12,899件	（平成13年度実績 13,850件）
	（所蔵有）	4,736件	（36.7%）
	（所蔵無）	8,163件	（63.3%）
4	所蔵館調査	6,501件	（平成13年度実績 7,026件）

平成14年度 受理件数（事項調査+所蔵調査+所蔵館調査）ベスト20

1	札幌市 2917件	6	伊達市 429	11	帯広市 296	16	上富良野町 244
2	旭川市 1854	7	砂川市 369	12	釧路市 293	17	蘭越町 235
3	北見市 1474	8	池田町 344	13	鶴川町 264	18	中標津町 228
4	滝川市 832	9	江差町 343	14	芦別市 257	19	苫前町 215
5	余市町 489	10	小平町 314	15	音更町 253	20	倶知安町 214

平成14年度 注目の市町村！

ニセコ町・・・昨年比45倍！新館パワー
福島町・東川町・・・昨年0からの飛躍！急増中
池田町・・・件数倍増！堂々のトップ10入り
七飯町・美瑛町・雄武町・美深町・士幌町
・・・総件数、赤丸急上昇中！
上富良野町・恵庭市・・・事項調査急増中！

ちなみに・去年のベスト5は？

今年もベスト4は変わらず！

- 1 札幌市 2,537件
- 2 旭川市 1,127
- 3 北見市 1,137
- 4 滝川市 873
- 5 音更町 578

所蔵館調査紹介先件数内訳（平成14年度）

（当館が他館を紹介した件数です）

紹介件数合計 6,060件（平成13年度 6,635件）

<内訳>

・道内公共図書館 4,631件（平成13年度 4,518件）

<紹介数が多かった図書館>

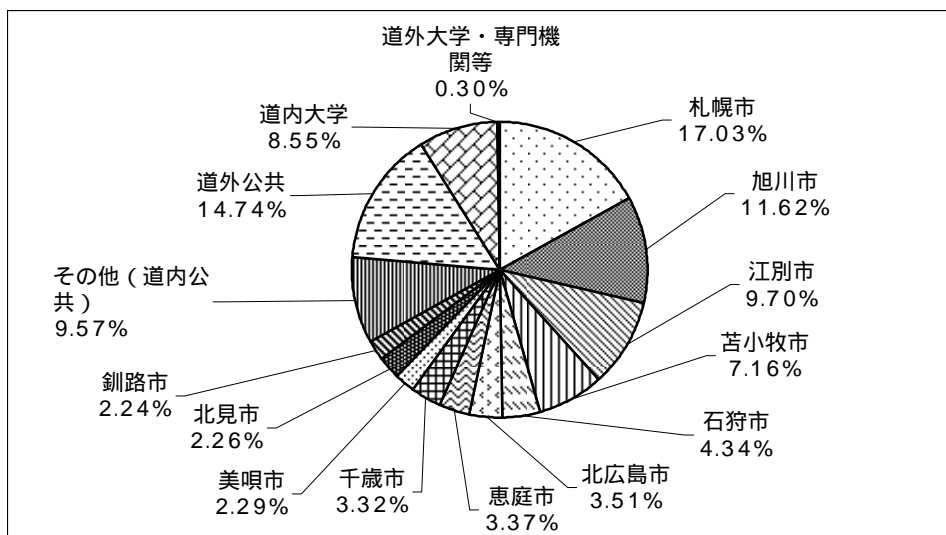
札幌市	1032	旭川市	704	江別市	588	苫小牧市	434
石狩市	263	北広島市	213	恵庭市	204	千歳市	201
美唄市	139	北見市	137	釧路市	136		
その他	580						

・道内大学図書館 518件（平成13年度 652件）

・道外公共図書館 893件（平成13年度 1,442件）

・道外大学等 18件（平成13年度 23件）

グラフにみる紹介先件数の割合（平成14年度）



注）道内市町村の場合、依頼された1冊（1件）に対し、自治体ごとに1件としています。
また、道内（外）大学及び道外公共図書館の場合は、複数館を紹介しても1冊1件としています。

昨年度も各図書館のご協力の下、所蔵館調査を進めてきました。全体の紹介件数は減少していますが、道内公共図書館を紹介した件数は少し伸びました。特に町立図書館を紹介した件数が13年度に比べ増えています。道内公共図書館のOPAC公開館数も年々増えており、それにより紹介する図書館もわずかながら分散している傾向が見られます。

件数自体は減少していますが、以前よりも調査時間が掛かる傾向があります。これは、他県の郷土資料や専門書などの依頼が以前より増えており、そのため道内図書館のみならず、道外図書館や専門機関への調査が増えたことが要因の1つとなっています。また、入手できる資料についてはリクエストとして当館で収集する方向で対応しています。そのため、資料提供や回答に時間が掛かることありますが、ご理解頂きます様をお願いします。

今年度も所蔵館調査のご協力のほど、よろしく申し上げます。

課員のつばやき 日々の業務からの短信

4月の異動で金山が資料課へ、松下が奉仕課へ、後任に加藤と伊藤(新人)が着任しました。よろしくおねがいします。今回は加藤と、元課員のつばやきです。

さて、私(加藤)は北方資料室(地域資料室)でもレファレンス担当でしたが、種々の業務を兼務せざるを得ず、専念できないことが残念でした。そんな中、皆で「参考図書解説目録」(『北の資料』連載)を作ったのですが、その資料がどこまでレファレンスに役立つかを、1冊1冊手に取り吟味し解題することで、自分がいかに資料を使いこなしていなかったかを痛感しました。意外なところに使える資料が埋もれているものです。どの部署に在っても同じですが、常に全蔵書を背負い、資料をよく知り、利用者と向かい合わなければなりません。地域資料といっても一般の質問でも使えるものも多く、現在でもしょっちゅう北方資料を見に行くことになろうとは、思いがけないことでした。

当課では、事項調査の毎日です。各図書館でもインターネット環境が整い、調べつくした後で寄せられる難しい質問も多く、時代を感じます。地域資料に比べれば当然ですが資料の充足率も落ち、所蔵館調査の協力館には感謝するばかりです。

レファレンスは、図書館が役に立つと実感してもらいやすいサービスです。質問のひとつひとつを大切に、迅速・的確な回答を目標に、また、レファレンスサービスの底上げに課として何ができるのかを考える日々です。

元課員その1 参考調査課 資料課 《金山聖子》

“便利”の陰で失われたものを自覚しつつ

資料課に身を置いて3か月。他課にいた頃には想像だにできなかったデータ整備のための一見単調とも言える地道な作業の数々。しかもエンドレス……。当課の職員は「資料課は地味に忙しい課」と評しましたが、まさにその通り。“地味な忙しさ”に右往左往する日々ですが、この積み重ねが資料の提供や活用を支えているのだということを実感し、責任を感じる3ヶ月でありました。同時に、資料提供やレファレンスという業務と厳しい資料費の狭間で、どのような資料構築をするべきなのか、そのために蔵書や資料を知る力が不可欠なことも改めて思い知らされる日々でもあります。

一方、業務の電算化に伴うMARCの導入は、迅速な資料整理や提供をもたらし、最早この仕組みなしの仕事は考えられませんが、この仕組みこそが不可欠であるべき資料を知る力や選書・整理能力の低下につながっていないか、“便利”や“迅速”の陰で失われているものがありはしないかという危機感も抱かせます。

厚みのある商品知識(=資料を知る)があればこそ、説得力のある選書やデータ整備が可能となり、豊かな資料提供や活用につながると確信します。資料を知ることとその機会が失われがちな仕事の仕組みという現実ではありますが、この矛盾を克服する努力とともに、資料提供やレファレンスを支える資料課道(?)を邁進したい。…そんなことを考えながら4ヶ月目に突入してみます。

元課員その2 参考調査課 奉仕課 《松下悦子》

5年もいた参考調査課から奉仕課に異動して早3ヶ月。なんとか仕事の流れを追えるようになりました。そんな奉仕課の立場からつぶやきたいと思います。

参考調査課では必要な資料を調査し、奉仕課で貸出・発送をしています。そのため、Lis-netで申込みのあった資料が見つからず、探し回ると、実は参考調査課で必要か不要かの連絡待ちのため取り置いてあったということがあります。

奉仕課では速やかに必要な資料を利用者に届けるよう努めています(発送違いでご迷惑もかけることもありますが・・・)。そのためにはワンクリックより電話1本のほうが早いこともあります。“アナログあなどるべからず”が身にしみる今日このごろです。

NEWS

「北海道雑誌・新聞総合目録 暫定版」収録範囲を拡大

4月に冊子版の送付および当館HPに搭載した「北海道雑誌新聞総合目録 暫定版」の収録範囲を平成15年度は町村立図書館まで拡大する予定です。近日中に該当する図書館にご案内の文書を送付します。ご協力よろしく申し上げます。

新任実務研修に風連町が来館

市町村支援課で行っている新任実務研修に、4月16日風連町からお二人が来館されました。当課からはレファレンス業務の概要についての研修(約60分)を行いました。

平成15年度全道図書館新任職員研修会に当課も協力

当課も北方資料室とともに、「レファレンス(講義・演習)」枠を担当しました。出席者は30名で、1人2問の演習問題にとりくみました。

貸出文庫に新規タイトル増加

「三つの墓標」(佐木隆三著 小学館 2002)

「運命の足音」(五木寛之著 幻冬舎 2002)

「忘れないでね、わたしのこと」(内館牧子著 朝日新聞社 2002)

貸出文庫(読書会用1タイトル10冊セット)は市町村の図書館(室)のリクエストを受け収集しています。

リクエストは資料課へ、貸出は奉仕課へ、それぞれ電話・FAXで受付しています。

また、「累積版」(平成12年3月1日発行)以後発行を見合わせていましたが、保存タイトルの精査をしたので、「貸出文庫目録」新版の発行を予定しています。

「レファレンス体験研修」参加者募集中!

今年も引き続き「レファレンス体験研修」を実施します。この研修は参加者と事前に何度かのやりとりをし、参加者が希望する日時と内容に添ったカリキュラムを作成して行っています。興味のある方はぜひ当課までご連絡ください。

夜間開館始まる

6月から8月の3ヶ月間、毎週水・木曜日の開館時間を7時まで延長します。レファレンス業務についても電話・FAXで通常通り受け付けています。ご利用ください。

平成15年度 参考調査課のメンバーは？

課員2名の異動があり、今年度は、樋山、加藤、桑原、原、伊藤、大塚の6名で、皆さんからのレファレンスをお待ちしています。
よろしくお願いします。

編集後記

§ 当課には、ありさん、キリギリスさん、たぬきさんがいます。私はたぬきです。それもかちかち山のたぬきでした。(おしりに火が付くまで原稿があがらず四苦八苦)(On)

§ 今年度はじめての「Do-Re」です。昨年のPC購入に続き、今年はデジカメを買いました。備品じゃないぞ！とは思いつつ…すでに初仕事をしてしまいました。でも、写真撮影って…結構好きかも。(KUWA)

§ ついに実現！ 去る11月に司馬遼太郎記念館(東大阪市)へ。(いきさつは、「Do-Re」通巻8号p4) 我館の書庫で背表紙だけは親しんでいる歴史分野の図書たちが、大壁面の書架に納められていた。記念館グッズのバンダナを何枚も買い込んだのは、ミーハーの骨頂。カフェコーナーでコーヒーをいただいて帰ってきたのでした。(み)

§ 今年も11月4～7日に道庁の道民ホールで道立図書館所蔵資料展を行います。展示は資料紹介であり、広義にはレファレンスに含まれるともいわれます。今回展示の企画に参加することになり、改めて自館資料をテーマに沿って見直す作業は新たな発見もあり、楽しんでいます。(テーマ等は次号Newsで…)(H)

§ 今年の4月からの新規(新卒ではありません…)採用です。いきなり参考調査課に配属で毎日四苦八苦していますが(怪しげな回答がありましたらごめんなさい!) 調査がひとつ解決する度にうれしくなります。どうぞよろしくお願いします。(I)

§ 思いがけず宮本・金山編集長の後を受けることになり、ようやく「Do-Re」をお届けできます。「三代目は家をつぶす」などと言いますが、(み)さんのチェックも厳しく、皆さんに愛読される「Do-Re」を予定どおりに出したいものだと、密やかに思っています。(ひ)



Do - Re(どうれ) の由縁

“ どうりつとしょかんレファレンス ” の略から名付けました。
しかしながら “ Do ! Reference ” とも
あるいは “ どれどれレファレンス ” からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do - Re

北海道立図書館レファレンス通信 11(通巻15号)

発行年月日 平成15年7月5日

編集 北海道立図書館参考調査課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地

Tel 011-386-8521 Fax 011-386-6906

ホームページ <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.jp/hk-tosho/top.htm>
